

# きずな



北九州市立折尾西小学校  
学校だより 学力特集号  
令和元年11月14日(木)  
校長 成重 純一

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

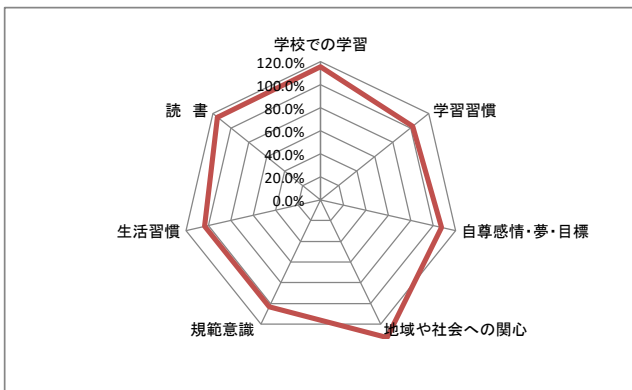
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において、全国平均正答率を大きく上回っていた。問題形式（選択・短答・記述）を問わず正答率が高かった。無解答率も低かった。一方で、「かぎらず」→「限らず」の問題のみ、無解答率が突出して高かった。基礎的・基本的な内容の定着を図りたい。	上回っている
算数	「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において、全国平均正答率を上回っていた。また、無解答率も低かった。特に「図形」「量と測定」についての知識・理解ができていた。一方で、面積の求め方の説明、加法と乗法の混合の計算、除法の計算の仕方の説明の問題については、全国平均正答率を下回っていた。	上回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

どの質問項目においても、全国平均と比べて良好な回答結果である。

特に、地域や社会への関心が高い。これは普段から地域・社会の様々な大人と接する機会が多いためであると思われる。校内においても、スクールヘルパーやボランティアと児童の交流が盛んに行われている。

学習習慣、生活習慣、規範意識は全国平均並みであった。さらに高められるよう、学校と家庭・地域が連携し、よりよい習慣を身に付け、意識を高められるようにしたい。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

本校では「言葉で説明する力」を国語科で育て、その力が各教科等に波及することを目指し、全学年で授業研究に取り組んでいる。算数科等においても、単に「計算ができる」という知識・技能だけでなく、「自分の考えを友達に説明する」などの思考力・判断力・表現力等を育てるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

特にスマホやゲームなど、時間の制限を守ることができずに長時間利用してしまい、生活のリズムが乱れてしまう児童も増えてきている。睡眠時間の不足により、学校でも学習に集中できず、学力の定着に支障をきたすことも懸念される。中学校以降の生活も見据えて、家庭学習や生活習慣の定着を図ることが必要である。